

甲虫 ニュース

COLEOPTERISTS' NEWS

No. 69 July 1985



日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書 III*

佐藤 正孝

Family Hydraenidae

ダルマガムシ科

この科については、神谷(1939)、中根(1965)、佐藤(1959, 1963, 1978)などの断片的な図説や記載があるにすぎない。なお、属の検索は佐藤(1985)が示したが、つぎの1種の所属が変更となるので、覚えを書いておきたい。

Neochthebius granulosus (M. SATÔ) クロコブセズダマガムシ

Ochthebius (Cobarius) granulosus M. SATÔ, 1963, Trans. Shikoku ent. Soc., 7: 129, fig. 1 (Is. Miyake-jima). — SATÔ, 1964, J. Nagoya Jogakuin Coll., (10): 77. — OHBA, 1978, Rep. Yokosuka City Mus., (24): 12, fig. 1.

Neochthebius granulatus: PERKINS, 1980, Quaest. Ent., 16: 409.

PERKINS (1980)は、新北区の Hydraenidae をまとめるに当って、この種が *Neochthebius* に入ることを示唆している。筆者は記載に際し北アメリカの *N. vandykei* (KNISCH, 1924)と比較したが、これに近縁であることには間違いないようである。この種は、海岸の岩礁地帯で満干線の付着藻類中に棲息するという特異な生態を示している。その分布は、関東以南で黒潮の流れに沿った地域であるが、これまでの記録は非常に少ない。分布：日本(本州、四国、伊豆三宅島)。

Family Hydrophilidae

ガムシ科

水棲甲虫としては、比較的大きな一群であるが、これまでまとまった報告はない。この科は4亜科に分けられる。佐藤(1985)は陸棲類としてのハバピロガムシ亜科の属の検索を作ったが、スペースの関係でもうひとつの大きな水棲群であるマルガムシ亜科については公表する機会がなかったため、以下に示しておくたい。

マルガムシ亜科の属の検索

- 1(12)小あごひげはやや太めで、触角より短いか同じくらい長さ、時に長い、その場合には上翅側縁が鋸歯状。
2(3)触角は8節。腹部は6節が認められる。後転節は大きく、先端部は腿節からやや離れる。後脛節は外方へ弱く彎曲する…………… *Lac-cobius* シジミガムシ属
3(2)触角は8節または9節。腹部は5節が認められる。後転節はあまり大きくなく、先端部は腿節に密着している。後脛節は彎曲しない。
4(7)上翅には明瞭な10点刻列がある。体長は4mm以上。
5(6)中・後附節の背面に游泳毛がない。上翅の側縁は弱く鋸歯状となる……………
…………… *Hydrocassis* マルガムシ属
6(5)中・後節の背面に游泳毛がある。上翅の側縁

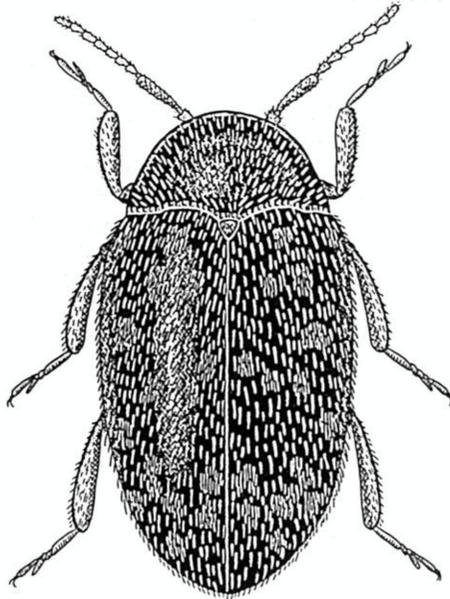


図1 リュウキュウダエンマルトゲムシ
Chelonarium ohbayashii (M. SATÔ)

* M. SATÔ. Taxonomic notes on the aquatic Coleoptera of Japan, III

- はなめらかとなる……………
 …………… *Hydrobius* スジヒメガムシ属
- 7(4) 上翅は不規則に点刻され、時に一部が列状となることがある。体長は 4 mm 以下。
- 8(9) 前・中胸腹板の中央は縦隆起を形成する。後腿節は密な微毛によって覆われることはない…………… *Parachymus* チビマルガムシ属
- 9(8) 前・中胸腹板の中央は縦隆起とならない。後腿節の基部 2/3 は密な微毛によって覆われる。
- 10(11) 上翅は一様に浅く点刻される。中胸腹板は後方が横に強く突出する。腿節は基部が太く、中央近くから急に先端へ狭くなる……………
 …………… *Anacaena* ヒメマルガムシ属
- 11(10) 上翅の点刻は強く、不規則ながら一部が列状となる。中胸腹板は後方が弱い突起となる。腿節は序々に先端へ狭くなる……………
 …………… *Crenitis* コマルガムシ属
- 12(1) 小あごひげはやや細く、触角より長い。
- 13(16) 頭部の両側はほぼ平行。小あごひげの第 3 節は第 2 節より長い。上翅は点刻列を欠く。
- 14(15) 体は長楕円形で、両側はやや平行状となる。触角は 9 節。前胸腹板の中央は縦隆条を有する。腹部腹板の第 1 節中央には縦隆条がなく、先端節の後縁は彎入する……………
 …………… *Agraphydrus* ツヤヒラタガムシ属
- 15(14) 体は楕円形で、後方へ強く狭まる。触角は 8 節。前・中胸腹板は中央に縦隆条を有する。腹部腹板の第 1 節中央に縦隆条を有し、先端節の後縁はまるまる……………
 …………… *Pelthydrus* マルチビガムシ属
- 16(13) 頭部の両側は前方へまるまる。小あごひげの第 3 節は第 2 節と等しいかまたはより短い。上翅は点刻列を有するか単に合線部小溝のみを有する。
- 17(18) 上翅は後方へほどよくまるまり、中央部で最も幅広くなる。小あごひげの第 2 節は全体ほぼ同じ太さで、内方へ弱く彎曲する。中胸腹板の中央は薄片状となる……………
 …………… *Enochrus* ヒラタガムシ属
- 18(17) 上翅は後方へやや拡がり、先端 1/3 で最も幅広くなる。小あごひげの第 2 節は先端に向けて太くなり、外方へ弱く彎曲する。中胸腹板の中央はわずかに突起する……………
 …………… *Helochaeres* スジヒラタガムシ属

Crenitis japonicus hokkaidensis (NAKANE),
 comb. et stat. nov. コマルガムシ北海道亜種
Anacaena hokkaidensis NAKANE, 1966, *Fragm. Coleopt.*, (14): 57 (Hokkaido: Nukabira).

この種が *Crenitis* に属することは, SATO (1982) がすでに報告しており, 他属との関係は上記の検索によって区別できよう。

C. japonicus (NAKANE) と *C. hokkaidensis*

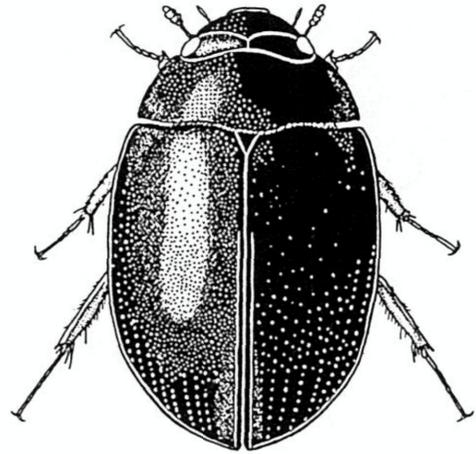


図 2 コマルガムシ
Crenitis japonicus (NAKANE)

(NAKANE) の区別点として原記載にあげられた特徴は、多くの個体を検すると非常に微妙で変異もあり、種としての差と認めることは無理のようである。本州と北海道という地理的区分と、後者の個体の点刻がやや密で小さいことから、一応亜種として取り扱っておきたい。

分布：日本（北海道）。

Enochrus (Lumetus) esuriens (WALKER)
 チビヒラタガムシ

Philhydrus esuriens WALKER, 1858, *Ann. Mag. nat. Hist.*, (3)2: 209 (Ceylon).

Pylophilus nigriceps MOTSCHULSKY, 1859, *Etud. Ent.*, 8: 46 (Ceylon).

Philhydrus ornateiceps SHARP, 1884, *Trans. ent. Soc. London*, 1884: 454 (Kioto).

日本から記載された *E. ornateiceps* (SHARP) が、東南アジアに広く分布する *E. esuriens* (WALKER) と同じでないかとの疑問を以前から持っていたが、後者の短い原記載では決め手がなかった。先頃、大英自然史博物館を訪れた際、タイプ標本を調べた処、両種が同じであることの表示がすでにしてあった。その処置について、すでに誰かが報告しているのではないかと思ひ、いろいろ調べてみたが、その文献が見当たらない。どこかで見落しているかも知れないが、同博物館に所蔵されている標本には、新種のタイプやメモが付されている標本が沢山あって、未公表のものがかなりあるので、これもその未処理のひとつかも知れない。

分布：日本（本州、四国、九州、琉球）、台湾、中国、東南アジア、インド、スリランカ、南太平洋域。

Family Chelonariidae

ダエンマルトゲムシ科

筆者(1968)は、琉球列島のこの類をまとめるに当って、日本産種の所属を変更したりした。しかし、どうも理解違いをしたりしていたらしく、その後北アメリカの標本を調べたりした結果つぎのように処置するのが正しいようである。

ダエンマルトゲムシ科の属の検索

- 1(2)前胸背の前・側縁は角をなして上反する。上翅側片は基部1/3まで幅広く、それ以降狭くなる。雄交尾器の先端突起は短い……………*Chelonarium* ダエンマルトゲムシ属
- 2(1)前胸背の前・側縁はまるまる。上翅側片は非常に幅狭い。雄交尾器の先端突起は長い……………*Pseudochelonarium* シラホシダエンマルトゲムシ属

Genus *Chelonarium* FABRICIUS ダエンマルトゲムシ属

Chelonarium FABRICIUS, 1801, Syst. Eleuth., 1: 101.—LACORDAIRE, 1854, Gen. Col., 2: 488.—KIRSCH, 1873, Stett. Ent. Z., 34: 152.—SHARP, 1902, Biol. Centr.-Amer. Col., II, 1: 685.—MEQUIGNON, 1934, Ann. Soc. ent. France, 53: 202.—MEQUIGNON, 1934, Bull. Soc. ent. France, (11): 171.

Pseudochelonarium: M. SATO, 1968, J. Nagoya Women's Coll., (14): 125.

Type-species: *Chelonarium atrum* FABRICIUS, 1801.

Chelonarium ohbayashii M. SATO リュウキュウダエンマルトゲムシ

Chelonarium ohbayashii M. SATO, 1964, Bull. Jap. ent. Acad., 1: 36 (Inaba, Iriomote-jima).

Pseudochelonarium ohbayashii: M. SATO, 1968, J. Nagoya Women's Coll., (14): 127, figs. 30, 32.—SATO, 1977, Check-list Coleopt. Japan, (10): 1.

分布: 琉球(宮古島以南)。

Genus *Pseudochelonarium* PIC シラホシダエンマルトゲムシ属

Pseudochelonarium PIC, 1916, Mel. exot.-Ent., (19): 1.—MEQUIGNON, 1935, Stylops, 4(3): 66.

Chelonarium: M. SATO, 1968, J. Nagoya Women's Coll., (14): 125.

Type-species: *Pseudochelonarium hirsutum* PIC, 1916.

Pseudochelonarium japonicum (NAKANE), comb. nov. シラホシダエンマルトゲムシ

Chelonarium japonicum NAKANE, 1963, Fragm. Coleopt., (11): 43 (Nukumi Pass, Oku-Mino).—SATO, 1977, Check-list Coleopt. Japan, 10: 1.

従来本州と北海道から知られていたが、筆者は対馬でも採集しているので、新記録として報告する。検視標本: 1 ex., Uchiyama, Tsushima Is., 18-19. vii. 1960, M. SATO leg. (New to the fauna of Tsushima Island).

分布: 日本(北海道, 本州, 対馬)。

Pseudochelonarium yakushimanum (NAKANE), comb. nov.

ヤクシマダエンマルトゲムシ

Chelonarium yakushimanum NAKANE, 1963, Fragm. Coleopt., (11): 43 (Yaku-shima).—SATO, 1968, J. Nagoya Women's Coll., (14): 125, fig. 31.—SATO, 1977, Check-list Coleopt. Japan, (10): 1.

分布: 日本(屋久島), 琉球(奄美大島)。

Family Heteroceridae

ナガドロムシ科

Heterocerus (s. str.) *fenestratus* THUNBERG タテスジナガドロムシ

Heterocerus fenestratus THUNBERG, 1784, Nov. Acta Upsal., 4: 3.

Heterocerus (s. str.) *asiaticus* NOMURA, 1985, Tôhō-Gakuhô, (8): 58, pl. 1, fig. 6 (Tokyo: Narimasu).

H. laevigatus PANZER, 1794, *marshami* STEPHENS, 1828, *pusillus* WALTZ, 1839, *pulchellus* KIESENWETTER, 1843, *multimaculatus* MOTSCHULSKY, 1854, *croaticus* KIESENWETTER, 1890, *corsicus* KIESENWETTER, 1890, *tonkinensis* GROUVELLE, 1896, *latus* GROUVELLE, 1915.

この種は旧北区に広く分布する種であるが、CHARPENTIER (1979) によれば日本から記載された *H. asiaticus* NOMURA は *H. tonkinensis* GROUVELLE, *H. latus* GROUVELLE とともに本種のシノニムとされた。この属に含まれる種については、かなりの個体変異があり、分布が広いこと、種間の形質が握みにくい点などから同定には注意が必要である。

分布: 日本(北海道, 本州, 四国, 九州), 琉球, 旧北区, 東洋区。

Family Psephenidae

ヒラタドロムシ科

従来この科に含まれる日本産属としては、*Mat-aeopsephus*, *Psephenoides*, *Eubrianax* の3属が知られていた。いっぽう、近縁のナガハナノミ科には長形と丸形の2型が含まれており、異質的な組み合わせのように思える部分があった。また、日本産で成虫が長形のは幼虫が円筒形で、丸形のは陣笠型となることが判ってきた。さらに、後者の幼虫がこの科のものに非常に似ていることから、それらの所属の再検討が望まれていた。すでに CROWSON (1955), BROWN (1972) など一部の陣笠型幼虫の成虫がこの科に属する取扱いをしたりしている。日

本産の成虫も調べてみると、従来 *Grammeubria*, *Macroebria*, *Spineubria*, *Urumaebria*, *Cophaesthetus* など、ナガハナノミ科として知られていた丸形の一類は、つぎのような特徴でこの科に含めた方がよいと考えられる。

体は丸形でやや平たい。頭楯がよく発達するため頭部は嘴状に突出し、上唇はその下に隠され背面から認められない。後胸腹板後縁に沿って中央から横に延びる縫合線を有する。前・中・後基節間はともに幅広く離れる。

Genus *Ectopria* LECONTE, 1853 チビヒゲナガハナノミ属

Ectopria LECONTE, 1853, Proc. Acad. Phil., 6: 351. —LECONTE, 1861, Classif. Col. N. Amer., I, 62: 180. —LACORDAIRE, 1857, Gen. Col., 4: 274. —HORN, 1880, Trans. Amer. ent. Soc., 8: 95. —LECONTE and HORN, 1883, Calssif. Col. N. Amer.: 173. —CHAMPION, 1897, Biol. Centl. Amer. Col., III, 1: 597. —BLATCHLEY, 1910, Ill. Descr. Cat. Col. Indiana: 690.

Eurea LECONTE, 1853, Proc. Acad. Phil., 6: 354. —LACORDAIRE, 1857, Gen. Col., 4: 274.

Grammeubria KIESENWETTER, 1874, Berl. ent. Z., 18: 248. —NAKANE, 1948, Bull. Takarazuka Ins., (45): 15. —NAKANE, 1956, Shin-Konchu, 9 (3): 55. **Syn. nov.**

Urumaebria M. SATO, 1968, J. Nagoya Women's Coll., (14): 140. **Syn. nov.**

Eubria: MELSHEIMER, 1844, Proc. Acad. Phil., 2: 222 (nec GERMAR, 1818).

Type-species: *Eubria nervosa* MELSHEIMER, 1844

日本からはこれまで *Grammeubria* に属する 3 種と *Urumaebria* に属する 1 種の記録があった。それらについては、さきに SATO (1983) が 2 属 2 種に整理した。しかし、その後よく調べてみると、その 2 属は同一の属として取り扱った方がよく、しかも北アメリカに分布している *Ectopria* とも区別できないことが判った。

***Ectopria opaca* (KIESENWETTER), comb. nov.**
チビヒゲナガハナノミ

Grammeubria opaca KIESENWETTER, 1874, Berl. ent. Z., 18: 249 (Nagasaki). —NAKANE, 1948, Bull. Takarazuka Ins., (45): 15, figs. 6 g, 8 e, 9 c. —NAKANE, 1956, Shin-Konchû, 9 (3): 54. —SATO, 1983. Check-list Coleopt. Japan, (20): 4.

Grammeubria nitidula KIESENWETTER, 1874, Berl. ent. Z., 18: 294. —NAKANE, 1948, Bull. Takarazuka Ins., (45): 15. —NAKANE, 1956, Shin-Konchû, 9 (3): 55.

Drupeus testaceipes PIC, 1944, Échange Rev. Linne., 13: 1 (Japon). —NAKANE, 1956, Shin-Konchû, 9 (3): 54.

上記のシノニム関係については、SATO (1983) がチェックリストの中で公表したが、それらはさきにヨーロッパの博物館を訪れた折にタイプ標本を調べた結果であった。大英自然史博物館では *G. nitidula* KIESENWETTER の、パリ自然史博物館では *D. testaceipes* PIC のタイプ標本をそれぞれ調べることができ、同一種に間違いのないことを確かめた。しかし、残念なことに *G. opaca* KIESENWETTER のタイプ標本を見出すことはできなかった。そこで記載によって判断する限り、これまで沢山見た各地の標本からも、*G. opaca* と *G. nitidula* を明確に区別できないことから、先行頁で記載された *G. opaca* を有効名とした次第である。所属については、先に述べたように *Ectopria* に含めるべきと考える。

分布: 日本 (本州, 四国, 九州)。

***Ectopria tachikawai* (M. SATO), comb. nov.**
イシガキチビマルヒゲナガハナノミ

Urumaebria tachikawai M. SATO, 1968, J. Nagoya Women's Coll., (14): 142, figs. 63, 65 (Mt. Omoto-dake, Ishigaki-jima). —SATO, 1983, Check-list Coleopt. Japan, (20): 4.

分布: 琉球 (石垣島)。

Family Elmidae

ヒメドロムシ科

この科の名称については、ギリシャ語に由来する *Elmis* 属を基本とするからには、文法上の語尾変化から、STEFFAN (1958) が *Elminthidae* を使用すべきとの提案をした。それ以前にも 2, 3 議論はあったが、それ以降 STEYSKAL (1975) は *Elmidae* と、MADGE & POPE (1980) は *Elmididae* とすべきことを論じている。どうも我々日本人は、このような古典語に由来する文法上の取り扱いにはなじみがなく、正直のところどれを採用すべきか迷ってしまう。とりあえず、ここでは従来から使われてきた *Elmidae* としておきたい。

筆者 (1985) は先にこの科の族とツヤドロムシ族の属の検索を示したが、スペースの関係でヒメドロムシ族の検索を示すことができなかった。それを補う意味で、つぎにその検索を示しておきたい。

ヒメドロムシ族の属の検索表

- 1(8) 前脛節前縁に房状の細毛がない。
- 2(3) 前胸背前半に明瞭な横溝がある……………
……………*Leptelmis* ヨコモゾドロムシ属
- 3(2) 前胸背前半に横溝がない。
- 4(5) 前胸背は単純に膨隆するだけで、基部側方に溝または隆条がない……………
……………*Nomuraelmis* ノムラヒメドロムシ属
- 5(4) 前胸背は起伏があり、基部側方に縦溝または縦隆条がある。
- 6(7) 上翅の第 2 点刻列は基部 1/5 近くで第 1 点刻列に融合する… *Ordobrevia* ミゾドロムシ属
- 7(6) 上翅の第 2 点刻列は第 1 点刻列に融合するこ

- となく先端まで達する……………
 …………… *Stenelmis* アシナガミゾドロムシ属
 8(1)前脛節前縁に房状の細毛がある。
 9(14)前胸背の基部側方に縦隆条で限られた溝がない。大型種で体長3.5mm以上。
 10(11)上翅側片は基部で幅広く、腹部第2節近くで急に狭くなり第4節近くで消失する……………
 …………… *Neoriohelmis* クロサワドロムシ属
 11(10)上翅側片は普通で、先端に向かって序々に狭くなる。
 12(13)触角の先端節は前節の2倍近い長さとなる。上翅の第3、4点刻列は中央部で融合する……………
 …………… *Kraphelmis* アヤスジミゾドロムシ属
 13(12)触角の先端節は前節より僅かに長い。上翅の第3、4点刻列は途中で融合することなく翅端に達する……………
 …………… *Pseudamophilus* ケスジドロムシ属
 14(9)前胸背は基部側方に縦隆条で限られた溝がある。小型種で体長3mm以下。
 15(16)小あごひげは3節からなる。前胸背基部側方の縦隆条は長く基部から前縁近くに達する……………
 …………… *Cleptelmis* セマルヒメドロムシ属
 16(15)小あごひげは4節からなる。前胸背基部側方の縦隆条は短く中央以下に達する。
 17(18)前胸背後縁中央前の凹陷を欠く。腹部第1節に縦隆条がない。触角は長い……………
 …………… *Optioservus* マルヒメドロムシ属
 18(17)前胸背後縁中央前に凹陷がある。腹部第1節

に中央突起両側から伸びた縦隆条がある。触角は短い……………

…………… *Krowellinus* ナガアシドロムシ属
***Graphelmis shirahatai* (NOMURA) アヤスジミゾドロムシ**

Stenelmis shirahatai NOMURA, 1958, Entom. Rev. Japan, 9: 42 (Yamagata Pref.: Jimmachi).

Graphelmis shirahatai: DELÈVE, 1968, Ann. Hist.-Nat. Mus. natn. Hung., 60: 170.

この種は非常に少ないようで、原記載以後正式な記録がない。筆者はつぎの標本を検査する機会を得たので記録するとともに簡単な記載を付しておいた。ここに記録した標本のほとんどは、河川の上・中流の清流域付近の灯火で得られたものであり、本来の棲息環境については何も判っていない。

体長: 3.4~3.7 mm, 頭部と前胸背の大部分, 上翅の点刻列とその周辺, 腿節基部は褐色ないし黒褐色, 前胸背の中央溝は深く, その両側は高まり後縁近くは特に隆起し, 側方に2個の円形隆起がある。上翅は肩部と第3間室基方が隆起する。肢の爪は大きく基部が尖る。

檢視標本: 1 ex., Tókatta, Miyagi Pref., 1. viii. 1976, T. WATANABE; 1 ex., Niitsu, Niigata Pref., 28. vii. 1966, K. BABA; 1 ex., ditto, 23. viii. 1965, S. SAKURAI; 12 exs., Kaibara, Hyōgo Pref. 2~17. vii. 1949, Y. YAMAMOTO.

分布: 日本(本州)。

(名古屋女子大学)

ハムシ2種の加害植物

1. ニッコウルリハムシ *Chrysolina nikkoensis* (JACOBY 1885)
 1957年に中條道夫博士が馬場金太郎博士の観察例に基づいて、本種の加害植物をヨメナ *Aster yomena* MAKINO とし、和名をヨメナハムシと改称して以来、本種の加害植物についての記録がなく、最近刊行された保育者の原色日本甲虫図鑑(IV)でも木元新作博士は、やはり加害植物としてヨメナを挙げている。しかし、私の観察によれば、本種の加害植物はオトギリソウ *Hypericum erectum* THUNBERG でヨメナではない。
 6頭, 山形県最上郡真室川町釜淵, 23. vi. 1961, 黒沢良彦採集。
 林業試験場釜淵支場の構内で、オトギリソウの小株に群れていたもので、他のオトギリソウの株には全く見当らなかった。同行した白畑孝太郎氏も本種の加害植物は常にオトギリソウで、ヨメナでは見たことがないと話しておられた。
2. ハッカハムシ *Chrysolina exanthematica* (WIEDEMANN, 1821)
 本種の加害植物は和名の示す通り、ハッカ *Men-*

tha aruensis LINNÉ であるが、当然のことながら、他のシソ科の植物にも加害する。私はシソ *Perilla frutescens* BRITTON (山形県米沢市), チヨロギ *Stachys sieboldi* MIQ. (福島県会津若松市), カキドオシ *Glechoma hederacea* LINNÉ (福島県北会津郡北会津村三伏) などを確認している。

なお、私の検した北海道産の標本の中に強い紫藍色を帯びるものが2頭もあり、他のものも多少の紫藍色を帯びているが、本州産にはこの様なものはない。興味あることと考える。

(国立科学博物館, 黒沢良彦)

○ハナムグリの北海道における記録

ハナムグリ *Eucetonia pilifera* MOTSCHULSKY の分布地として北海道が図鑑等に記されているが、本種は北海道においては少ないらしく、筆者の不勉強から今まで確実な記録を見ていないので、ここに記録しておきたい。

1♂, 北海道札幌市簾舞, 12. vii. 1979, 酒井和宏採集, 筆者保管。

未筆ながら種々ご教示いただいた石井正明先生、標本を恵与された酒井和宏氏に深く感謝したい。

(神奈川県海老名市, 和田 薫)

○キンバラオオナカボソタムシの追加記録

キンバラオオナカボソタムシ (黒沢博士新称) *Coraebus chrysogaster* Y. KUROSAWA, 1953 は、台湾埔里および霧社産のそれぞれ 1 ♀に基づき黒沢博士が記載した美麗種で、背面は銅青色ないし青藍色、体下は中胸腹板、後胸腹板、後基節、腹部腹板などが唐金色を呈し、金色の毛で密に覆われている。珍稀種で、記載以来久しく記録がなかったが、1978年に、秋山黄洋氏が本種の追加記録とそれまで未知であった♂について述べている。筆者は本種 3 ♂♂ 2 ♀♀ を入手したので、これを記録するとともに秋山氏の述べなかった♂の特徴について触れたい。

3 ♂♂ 2 ♀♀、台湾省南投県松崗、11~21, vii. 1983, 羅錦吉 (Li Chingchi) 採集。

♂は♀に較べて、1) 触角は細長で前胸側縁を超えて翅鞘肩部に達する; 2) 翅鞘中央後の銀白毛の横帯は狭い; 3) 前胸腹板突起の前方 1/3 には中央に明瞭な側方より見て中高の縦隆条がある (第 1 図); 4) 後脛節の先端 1/3 の内側にある縦稜は強く細かい鋸歯状になる; などの諸点で異っている。このうち、2 および 3 の特徴は秋山氏の述べなかったものであるが、3 は特に重要な特徴と思えるので、雄交尾器 (第 2 図) と共に図示しておく。

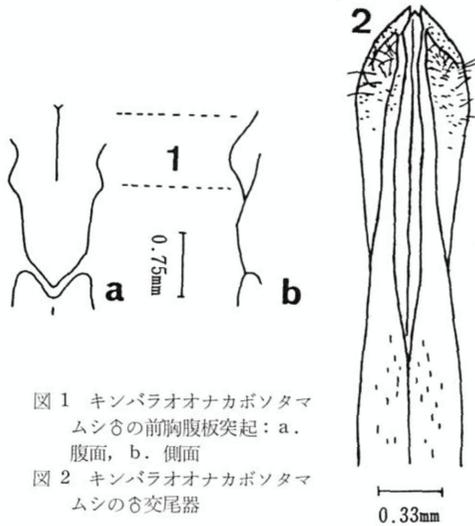


図 1 キンバラオオナカボソタムシの前胸腹板突起: a. 腹面, b. 側面
図 2 キンバラオオナカボソタムシの雄交尾器

参考文献

KUROSAWA, Y., 1953. Synonymies and identifications of Genus *Coraebus* from Eastern Asia, with descriptions of several new forms (Coleoptera). *Bull. Natn. Sci. Mus.*, Tokyo, (33): 96-109.
秋山黄洋, 1978. *Coraebus chrysogaster* Y. KUROSAWA の記録. 甲虫ニュース, (43): 8.
(横浜市中区, 服部宇春)

○神奈川県未記録の甲虫 8 種の記録

筆者は神奈川県未記録と思われる下記の 8 種を採集しているので記録しておきたい。尚、一部同定をお願いした平野幸彦氏に厚くお礼申し上げる。

1. ヤマトケンマダグソコガネ *Psammodyus japonicus* HAROLD
1 頭, 茅ヶ崎市東海岸南, 27. X. 1984. 海辺に打ち上げられ腐りかけていた昆布の中より採集した。近くでは千葉県房総半島および東京都大田区から記録があるようである。
2. ルイスコオニケンキスイ *Cryptarcha lewisi* REITTER
1 頭, 川崎市麻生区黒川, 17. vii. 1976, クスギの樹液に集来していたものを採集した。
3. コヨツボシケンキスイ *Librodor ipsoides* (REITTER)
1 頭, 津久井郡石老山, 2. vii. 1983。
4. マルチビゴミムシダマシ *Caedius marinus* MARSEUL
3 頭, 三浦市三浦海岸, 1. xi. 1984; 23 頭, 茅ヶ崎市東海岸南, 27. x. 1984; 3 頭, 平塚市千石河岸, 27. x. 1984; 12 頭, 中郡大磯町, 22. xii. 1984; 14 頭, 小田原市御幸ヶ浜, 3. xi. 1984. 海浜の砂中より得られ、近くでは千葉県富津市、静岡市で得られているので本県での生息も当然予想されていたものである。上記の通り県内各地の海浜より多数採集出来た。
5. *Caedius fluviatilis* NAKANE et MASUMOTO
25 頭, 厚木市金田, 15. xii. 1984, 河川敷の砂地に生息しているゴミムシダマシであるが小砂利と大変紛らわしい形態をしているので発見はなかなか困難である。
6. カクснаゴミムシダマシ *Gonocephalum reticollis* MOTSCHULSKY
7 頭, 横須賀市野比, 1. xi. 1984; 1 頭, 足柄上郡中川, 17. xi. 1984. 前者は海浜、後者は河原の砂中より採集した。
7. タケイキノコゴミムシダマシ *Platydema takeii* NAKANE
1 頭, 川崎市多摩区榎形山, 9. v. 1982; 1 頭, 同生田, 6. viii. 1984. 両方共朽ちたコナラに生じたキノコより得た。
神奈川県のコミムシダマシ類は、「神奈川県昆虫調査報告書」(1981) に 69 種報告された後、筆者の知る限りでは 7 種追加され、今回の 4 種を合せて 80 種記録されたことになる。
8. シュロゾウムシ *Derelomus uenoi* MORIMOTO
5 頭, 川崎市麻生区黒川, 4. v. 1978. シュロの花梗に多数群らがついていたものの一部である。東京都高尾山などにおける生態が本誌 36 号 (1976) に報告されている。

(神奈川県川崎市, 沢田和宏)

福島県会津地方のツヤネクイハムシなど

黒 沢 良 彦

福島県会津若松市の南、国鉄会津線の湯野上駅（当時は福島県南会津郡江川村湯野上、現在は下郷町湯野上となっている）の手前右側に小野川の峡谷がある。その峡谷を約1時間ほど遡ると、突然あたりが開けて、山の起伏がゆるやかになり、草地が多くなって、様子が一変する。そこから左手にやや登ると、一面に沼山の湿原が広がっている。私がここを訪れたのは今から36年も以前のことで、現在では様子が全く変わってしまっているかも知れないが、備忘のためにこの湿地で得たスゲハムシ類3種について記しておく。

沼山の湿原を6月上旬頃に訪れると、スゲなどの葉に沢山のスゲハムシ類が点々と止っている。その大部分はスゲハムシ *Plateumaris sericea* (LINNÉ, 1761) であるが、かなりの数のヒラタネクイハムシ *Donacio hiurai* KIMOTO, 1983と少数のツヤネクイハムシ *Donacia nitidior* (NAKANE, 1963) が混っている。私はこれらのスゲハムシ類に3種類あることを確認したうえで、当時香川大学農学部におられた中條道夫博士に標本を送って同定を依頼した。その結果、同博士より、これらのハムシはスゲハムシ *Plateumaris sericea* (LINNÉ, 1761), *Donacia impressa* PAYKULL, 1799 および *Plateumaeis* sp. の3種であるとの御返事を頂いた。このうち、第2の種類の、当時私の手許にあった。ヨーロッパ産の *D. impressa* の標本とはかなり異っていたので、不審に思っていたが、1960年に中條博士と木元新作博士はこの種類をやはりヨーロッパからシベリアにかけて分布する *D. obscura* GYLLENHAL, 1813 と同種で *impressa* PAYKULL とする G. LEWIS の記録 (1893) は誤であるとした。しかし、翌1961年に木元博士は何等理由を挙げることなく、この *obscura* GYLLENHAL とした種類を、やはりヨーロッパからシベリアにかけて分布する *D. thalassina* GERMAR, 1811 に変更している。私の手許には、ヨーロッパ産の *obscura* はなかったが、*thalassina* は数頭の標本があり、それに較べると、日本産のものは明らかに別種であるので、一体どれが本当であろうかと困惑せざるを得なかった。このことは何度も木元博士には伝えたが、その後も種名は変更されることなく、やっと1983年になって新種と認められて、ヒラタネクイハムシ *D. hiurai* KIMOTO, 1983 の新名が与えられた。北隆館の原色昆虫大図鑑、II (甲虫篇)、第161図版第6図に中根猛彦博士が、アシボソネクイハムシ *D. gracilipes* JACOBY として図示している種類は恐らく本種であろう。第3の種類の、1963年になって、京都大悲山産の11頭の標本によって、中根博士が記載した、ツヤネクイハムシ *Plateumaris nitidior* NAKANE, 1963 に他ならない。本種の体色には2型あり、唐金色の型が大部分であるが、極めて

稀に青藍色の型が現れる。沼山の湿地では、多くの唐金色のものに混って、ただ1頭だけ青藍色のものを得た。この標本は中條博士にお送りしたから、現在は同博士のコレクションの中にあるはずである。一般にスゲハムシ属 *Plateumaris* の種類は色彩的に多型の種類が多いが、ネクイハムシ属 *Donacia* の種類にこの様な例があることを私は知らない。ツヤスゲハムシは、1970年に P. JOLIVET によって *Euplateumaris* 亜属に移され、1981年には木元博士によってさらにスゲハムシ属 *Donacia* に移されたが、この色彩的2型があることや体形からみると、この扱いに私は疑問を持っている。小宮義璋氏によると、本種の分布は中部以北では詳になっていないとのことであるので、以下に記録しておく。

1♂2♀♀, 福島県南会津郡下郷町沼山, 6. vi. 1948, 黒沢良彦採集。

この時には他にもかなりの数のツヤネクイハムシを採っているが、いずれも散逸し、現在手許にあるのは上記3頭のみである。

なお、沼山の湿原は1950年6月17日にも再び訪れているが、この時にはネクイハムシ類の発生はすでに終りに近く、わずかにツヤネクイハムシ1頭を得たのみであった。ただし、代って多数のハッチョウトンボが発生していた。

参 考 文 献

- CHŪJŌ, M., & S. KIMOTO, 1960. Descriptions of three new genera and a new species of Chrysomelid-beetles from Japan, with some notes on the Japanese species. *Niponius*, 1 (4): 1-10.
- CHŪJŌ, M., & S. KIMOTO, 1961. Systematic catalog of Japanese Chrysomelidae (Coleoptera). *Pac. Ins.*, 3: 117-202.
- GRESSITT, J. L., & S. KIMOTO, 1961. The Chrysomelidae of China and Korea, 1. *Pacific Insects Monograph*, 1A: 1-229.
- JOLIVET, P., 1970. Donaciinae. *Coleopterorum Catalogus Supplementa*, pars 51, fasc. 2 (ed. secunda), W. O. STEEL (ed.), s¹-Gravenhage, W. Junk (pp. 1-71).
- KIMOTO, S., 1961. A revisional note on the type specimens of Japanese Chrysomelidae which are preserved in the museums of Europe and the United States, 1. *Kontyu*, 29: 159-166.
- KIMOTO, S., 1964. The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands, 1. *J. Fac. Agr. Kyushu Univ.*, 13: 99-118.
- KIMOTO, S., 1983. Revisional study on Megalopodinae, Donaciinae and Clytrinae of Japan (Coleoptera: Chrysomelidae). *Ent. Rev. Japan*,

38: 5-23.

木元新作, 1984. 原色日本甲虫図鑑(4), ハムシ科.

大阪, 保育社, pp.147-222, pls. 29-43.

KIMOTO, S., & I. HIURA, 1964. A list of the Chrysomelid specimens preserved in the Osaka Museum of Natural History I (Coleoptera). *Bull. Osaka Mus. Nat. Hist.*, (17): 5-18.LEWIS, G., 1983. A list of Coleoptera new to the fauna of Japan, with notices of unrecorded synonyms. *Entomologists*, 26: 150-153.NAKANE, T., 1963. New or little known Coleoptera from Japan its adjacent regions, 16, Chrysomelidae. *Fragmenta Coleopterologica*, (4): 18.

中根猛彦, 1963. ハムシ科. 原色昆虫大図鑑Ⅱ(甲虫篇), 東京, 北隆館, pp. 320-348, pls. 160-174.

野尻湖昆虫グループ, 1981. 日本産ネクイハムシ亜科に関する研究, 1. 1979~1980年に得られた分布と生活上の知見. *Bull. Osaka Mus. Nat. Hist.*, (34): 27-46. (国立科学博物館)

○伊豆諸島御蔵島のミヤママルクビゴミムシ

過日, 中村俊彦氏から頂いた同氏採集の御蔵島産ゴミムシ類の中に, 同島未記録のミヤママルクビゴミムシ *Nippononebria chalceola* (BATES) を見いだしたので報告しておく。

1 ♀, 東京都御蔵島川田, 8. vi. 1983.

本種は地域変異に富み, 御蔵島産の上記個体も, 基産地の箱根や日光などのものと較べると次の点でかなり異っている。

複眼がやや小さく, より平たい。前胸背板の側縁は後角の前でほとんど波曲せず, 後角は鈍角で先端は側方へ突き出さない。上翅の側縁は肩部後方の張り出しがやや弱く, 上翅はより卵型に近い。

末尾ながら興味深い標本を恵与くださった中村俊彦氏に厚くお礼申し上げる。

(千葉県船橋市, 笠原須磨生)

= <連絡・報告> =

○カットについて 今号より冒頭のカットが変更しました。本誌の垢ぬけしたカットは国の内外で好評を得ておりますが, これは創刊以来ずっと木村欣二氏の健筆をわずらわしております。この機会に氏のご厚意に深く感謝いたしたく存じます。(世話人一同)

昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5号(各号100本180円)

なお, 有頭針00, 0号もできました。その他, 採集, 標本整理用各種器具も取揃えてあります。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

電話 (03) 409-6401 (ムシは一ばん)

振替 東京 21129

志賀昆虫普及社

○採集会報告 1976年に宮城県蔵王山で第1回採集会をおこなって以来9年ぶりに, 第2回採集会を山梨県大菩薩の鈴蘭荘を根拠地として6月22~23日におこなわれました。梅雨前線の活発化にともない, 各地に大雨注意報の出るさなかでしたが奇跡的ともいえる好天に恵まれ, 参加者は28名(日帰り参加者1名), 各自少なからぬ収穫と懇談を楽しみ, 盛会裏に無事終了いたしました。ご多忙中, また遠路もいとわず参集された会員諸氏, ならびにお世話になった鈴蘭荘の各位に謝意を表します。〔世話人〕



参加者氏名(A B C順, 敬称略)

阿部光典, 福島生也, 古田 治, 服部宇春, 伊藤徳造, 和泉敦夫, 笠原須磨生, 小宮義璋, 黒沢良彦, 増山哲男, 松本浩一, 新里達也, 西川正明, 岡島秀治, 岡島由利子, 岡島賢太郎, 岡島礼次郎, 酒井香, 笹井厚子, 佐藤正孝, 沢田和宏, 妹尾俊男, 鈴木 互, 田尾美野留, 上野俊一, 渡辺泰明, 山登明彦, 吉原一美。

甲虫談話会

会費(一ケ年)2000円, 次号は9月下旬発行予定

投稿〆切は8月31日

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電話 (364) 2311, 振替東京 0-60664

印刷所 創文印刷工業株式会社

タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥5,000, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥1,700, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3個以下¥1,300, 4個以上¥850(以下同様), 第2地帯¥1,500, ¥950, 第3地帯¥1,700, ¥1,050, 其他, 各種器具, 針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥60)

タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島 2-212-25
電話 (03)811-4547, 振替 6-113479